

- 1 開催日時 令和2年2月25日(火) 午後2時00分～午後4時15分
- 2 開催場所 長野市消防局3階 消防団会議室
- 3 出席者 出席委員6人(うち代理出席1名)、欠席委員2人、事務局職員6人、  
(株)地域総合計画2人
- 4 次第
  - 1 開 会
  - 2 あいさつ
  - 3 協議事項
    - (1) 長野市自転車活用推進計画(素案)について 資料1-1  
資料1-2  
資料2
    - (2) 今後のスケジュールについて 資料3
  - 4 その他

### 【3 協議事項】

#### (1) 長野市自転車活用推進計画(素案)について

事務局から計画素案の内容を分割して説明する旨を伝え、1頁から10頁まで資料1-1に基づき説明を行った。

[意見等]

#### ◆B委員

9頁の課題について、課題というが無作為にまとめられているイメージでした。

課題や問題点と感じているものは、いくつかの方針の所に重複してくる。

文章で見ても課題的なものと、課題なのかなと思うもの、問題点に近いものが入り乱れている。アンケートの中で、自由意見も多くあると思うので課題をきれいにまとめるのではなく、アンケートを市民意見の結果として意見を並べて置き、そこから分類分けを行う。それを一通りみていくと課題が浮き上がってくる方が分かり易いのではないか。この後、パブリックコメントで市民から意見をもらう時も信憑性のあるものとなる。

無理に手を加えてまとめるのではなく、意見として出たものをブロックごとに集約した方が訴えやすいのではないか。

4頁の自転車通行空間の写真が2枚掲載しているところがあるが、右の写真は、歩車分離されているのでよいが、左の写真については、平成28年度までのガイドラインだこの整備でもよいが、現在はこのような整備はダメと言われているので、事例として使わない方がいいと思うので、ガイドラインに沿って整備した場所の事例写真にした方がいいと思う。

⇒事務局

9頁の課題については、絞ってあり7頁・8頁の市民意識ということで、アンケートからの様子を少し挙げている。この中から考えられる課題を9頁に記載している。

また、参考資料として40頁にも掲載している。課題については、意見のようなものをあげた方がわかりやすいか。

◆B委員

ここは計画の作り方の部分であり、どのようなやり方が正解かわからない。

◆A委員

アンケートに答えた人が、自分の意見が全くなくなってしまったと思う人もいるのではないか。アンケートの結果は、○頁から○頁までと明記していれば見てくれるかもしれない。ただ、参考資料の部分が計画の本編の方へ入り込んでくると、ページ数も多くなりダラダラとなってしまう。

B委員の意見は、せっかくいただいた意見なので参考にして、ここまできれいにまとめない方がいいという意味なので、もう一工夫あってもいいのかもしれない。

◆B委員

実際の課題として、他に考えられるものでシェアサイクルやレンタサイクルを含めて、輪行してくる人から出てきそうな意見として、サイクルトレイン、サイクルポートの意見があったか。

⇒事務局

アンケートの中にはシェアサイクルの設問があるが、具体的な意見はなかったと思う。

◆B委員

アンケートに限らず、協議会から出た意見として計画の中に反映していくこともありだと思ふ。アンケートの意見だけを考える必要はない。

◆A委員

長野市民にアンケートをしているので、サイクルトレインは普段使用していないから意識にない。しかし外から見ると、サイクルトレイン等を検討してくれるといいという意見があるかもしれないということも考えることは大事なこと。

◆C委員

アンケート結果を見たが、輪行という意見はなかった。シェアサイクルは1～2件あった。

松本市はシェアサイクルを税金で運営しているので利用料がかかっていない。無料で使えるが、利用した自転車が分散して駐輪されているので、自転車の回収には費用が発

生している。自転車の利用の仕方も人それぞれなので、パンクや何かに接触し破損したままの状態で見捨てられるため、そういった費用もかかっている。3年間運営してきて、様々なことが明らかになり課題として出てきている。

こういったものは、時間が経つと課題が見えてくるものであり、やってみないとわからない。そういったものを課題として掲載することがいいのだろうか。

◆B委員

計画にどのように記載するのかは、難しいところだと思う。論文等を書く際に、問題点と課題を使う。意味合いが全然違う、問題点はマイナス、課題は必ず解決策があるもの。最初に課題の発言をさせていただいたのは、9頁にはマイナスのもの、プラスのもの、プラスでもマイナスでもないものが入り乱れている。それを課題としてひとくくりになっているので、このようなまとめ方はもう一度見直すべきではないかと思い発言させていただいた。アンケート結果を集計していくと、これは解決しなくてはいけない問題点な意見や提案型で課題の意見をあげてくれている人もいる。また、何もない意見として挙げてもらっている人がいる。それぞれ、まちまちの書き方をしているのでいったん集約をして分類分けをする。そこから課題を抽出して基本方針へ持っていくというまとめ方をしているところが実は多い。

結果的には、それほど方針としてはそれほど大きくならない、11頁の基本方針4つ位になる。

せつかくアンケートをまとめてパブコメをかけるにしても、そこで出てきた意見をどうやって次に活かしていくかという分類分けが大事になると思う。

◆A委員

B委員の意見は、腑に落ちる話だと思うので検討していただきたい。

次に、事務局と打ち合わせをする中でキャッチフレーズがあった方がいいのではないかという話になった。長野市が自転車活用推進計画を策定した際には、長野市の広報やテレビ、新聞などに取り上げてくれる可能性がある。その際に、計画にキャッチフレーズがあると長野市の方向性が分かりやすくなり、キャッチフレーズを見た人が興味を持ち計画に目を通してくれる可能性があると思うので、委員の皆さんからご意見をいただきたい。補足資料に、他市の事例が記載されている。

◆B委員

公募していただくのはどうか。

◆A委員

公募する時間があるか。

◆事務局

時間的に厳しい。

◆A委員

何かたたき台があると、それをベースに検討できるので色々な案がでてくる。  
長野らしい言葉をいれたい。

◆B委員

パブコメに合わせて、キャッチフレーズの募集をすることはできないか。  
行政で、なかなか意見が出てこない中で決めるより、公募で出していただいた方がいいのではないか。

◆A委員

アンケートに協力してくれた高校生にお願いするのはどうか。  
高校生の皆さんからいただいた意見も推進計画に反映して策定するので、計画のキャッチフレーズの募集を各校3つ位お願いするのは時間的に厳しいか。

◆事務局

配布や取りまとめなど学校側の対応が難しいのではないかな。

◆A委員

学校側の対応が難しいのであれば、興味のある高校生のみ募集してもらう方法なら、学校側も大変ではないのではないかな。

◆事務局

高校生に配布して興味のある方に応募いただく方法と一般公募し期限を決めて募集する方法もある。  
一般に募集する方法で実施する場合、パブリックコメントの段階で実施できないこともないが、応募がなかった場合が考えられるので厳しい。

◆A委員

パブリックコメントでと言っていたが、そこまで意見が出てくることがないと思われるので、アンケートでも一番協力してくれた高校生にお願いすることがいいのではないかな。ただし、最終決定は部会で行うこととしたい。  
今ここで、キャッチフレーズ案を出すことは難しい。「爽やか」や「風を切って」といったようなイメージは使えると思うが現時点では難しい。  
高校生に興味を持ってもらうには、計画概要を高校生にみてもらい、キャッチフレーズを出してもらう。高校生が計画概要に目を通すだけでも意味がある。

◆事務局

タイミングとすると、3年生は卒業、1・2年生は休みに入ってしまうため、4月に入らないと動けないと思われる。

◆A委員

4月の初旬に学校へ依頼してみてもどうか。

学校には配布を依頼し、応募については応募先を記載しておき高校生にメール等で提出いただく方法。

その後は、事務局と相談して部会で進めていく。

◆事務局

応募状況によってご相談させていただく。

◆A委員

高校生にお願いすることが無理であれば、部会の中で決めていくしかないので、Eメール等を使いながら決めていく。

◆B委員

1ページの計画の期間を、令和2年度から令和6年度にしている理由は、上位計画との関連でこの計画期間が妥当と決めたのか。

◆事務局

長野市公共交通ビジョンの最終年度に合わせたもの。

◆B委員

上位計画のPDCAの回しかたに合わせて行うのであれば、上位計画が2年目なら無理に5年間とせず初年度の期間は4年間ということもあると思う。

そのような現状が前提がなく、計画期間が1行で期間を定めてあったので、上位計画との関連性が見えなかった。

◆A委員

上位計画との関連性はどうなっているか。

◆事務局

長野市公共交通ビジョンは10カ年計画であり、その上位計画の最終年度の2024年に合わせている。

◆B委員

2ページの計画の位置付けの説明内で計画の期間を書いてもらい、上位計画と連携する必要があることなどを記載しておいた方がよい。

◆A委員

本当は、自転車の活用推進が5年で結果が出るような簡単なものではなく、交通関係は全てそうだと思うが、例えば20年間くらいのスパンの中で、大きな目標があってその中の5年間で何を達成していくのかということが大事なことだと思う。

長野市で20年の計画などあるか。

⇒事務局

総合計画の期間が10年で、5年ごとにきっている。

公共交通ビジョンの期間も10年、網形成計画は5年で動いている。

網形成計画の中でも、自転車施策のことも触れているので、網形成計画の策定に合わせて自転車活用推進計画も検討していかなくてはいけないということもあり、5年としている。

◆A委員

11 ページ目からの「4. 自転車の活用に向けた施策」について、説明を求めた。

⇒事務局

11 頁から 12 頁について、資料 1 - 1 及び資料 1 - 2 により、説明を行った。

◆A委員

11 頁「健康増進・環境負荷軽減につながる広報啓発」の二つ目の●で「自動車から自転車へ切り替える」とあるが、「乗り換える」の方がいいのではないか。

◆B委員

目標とする指標をまとめていくときに、定量的な評価をしていくことも一つあると思う。後で振替って見たときに、補助金を申請し整備等をしていくことになるが、実際にそれが交付条件に合ってくるかを数量的に算出したりすることを求められる可能性もある。その時に、言葉だけで「推進します」とだけにしておくと、後の振り返りが大変になる。今、定量的な分析をしようとしているのは、アンケートをその都度として確認をするというイメージか。

⇒事務局

アンケートで評価することを考えている。

◆B委員

企業に対する自転車通勤制度の導入について、目標とすれば導入する企業数を決めておいて、実際に働きかけをすることによってどの程度転換されたのかを後に確認するなど、何かしら振り返りができる指標を作ることができるのではないか。

計画期間を当面 5 年計画で実施するにしても、最終的には大きなチャレンジ的な目標を作り、この 5 年間でどこまでもっていきますという目標を作っておくやり方もある。そうすると、定量的に分析ができる指標を作っておくことが重要だと思う。

全部ではないが、そういった指標を作れるものが幾つかあるのではないか。分析しようと思ったら分析できる指標としてまとめておくという観点もあると思う。

◆A委員

B 委員のご意見は、数値的な指標を作った方が良いという意見である。

例えば、駐輪場の整備の所で現状 1500 台を 2000 台に増やすという様な指標のこと。しかし、5 年間の期間の中では整備ができるかなと思う。

⇒事務局

駐輪場の台数は減るかもしれない。場所によっては集中して利用していると思うが、利用率が高くない駐輪場も多いので、全体的に増えるかという点と難しいと思う。

◆C委員

アンケート結果では、駐輪場に対して満足という意見が多かったが、不足しているという意見もあった。

⇒事務局

使っている方の駐輪場所によるものだと思う。

◆A委員

13 ページ目の「4-2. 自転車通行空間等の整備」について、説明を求めた。

⇒事務局

13 頁について、資料1-1及び資料1-2により、説明を行った。

◆B委員

自転車通行空間を整備していく中で、全国的に1.5メートル運動というものがある。自転車を後ろから追い抜くときに、自転車の横から1.5メートル離れて通らしようというもの。1.5メートル以下だと、風圧等で自転車が転倒する危険性があるため。1.5メートル運動は自転車だけ対象にしている運動ではなく、自動車を運転しているドライバー側への啓発もある。自転車通行空間の部分に入れるか、安全の部分にキーワードとして入れるかのどちらかだと思う。

この計画は、自転車利用者だけが見る計画ではないと思うので、自転車利用者が思う様な、運転マナーも含めた書き方をしても良いのではないかと思う。どの部分に記載するかということもあるが、考え方の部分に入れてもいいと思う。

なぜこのような話をするかという、後で振り返るときに調査が必要となってくるが、自転車通行空間を整備した後と前で、車で通行された方が路肩からどのくらい離れて運転したかということも一つの指標にする効果検証の仕方としてある。そういうものを取り入れて、積極的な数量的な評価をしていく一つの視点として重要なのではないか。

一つは、考え方の部分で入れてみてはという話と、二つ目は、極力数量的なものを指標に入れてPDCAで回していくという意見である。

◆C委員

1.5メートル運動は、計画内に入れた方がいいのではないか。

◆A委員

高齢のドライバーは頑なにキープレフトをされるので、1.5メートル運動が計画内に入ってくると認識してもらえないのではないか。

行政としては、1.5メートル離れて走行できる道路を作らなければならないということもあるが、1.5メートル運動という運動が行われているなどの内容が計画内に入っているのも良いと思う。

◆C委員

資料1-2の「自転車の通行空間の整備」の現状で、自転車走行時に危険と感じる箇所〔アンケート〕これに対する施策がないので、1.5メートル運動を施策として挙げてもいいのではないかと。

◆A委員

100%「1.5メートル運動」を実施することは難しいが、1.5運動があるので、それに向けて、「ルール・マナー」、「道路の環境整備」を含めて考えていかないといけないということが伝わればよい。

◆A委員

14頁からの「4-3. 安全に向けた啓発と賠償責任保険加入の促進」について、説明を求めた。

⇒事務局

14頁について、資料1-1及び資料1-2により、説明を行った。

◆D委員

安全に向けた啓発とあるが、自動車側への広報啓発活動をした方がよい。

47都道府県を自転車で走ったが、長野県の自動車の運転は安全ではないと感じた。

先ほどの1.5メートル運動関係ですが、例えば北海道では、道路の幅員の関係もあるがかなり距離をあけて追い抜いてくれた。しかし、長野県の場合は追い越しもストレスで車線に戻すのもストレスなため接触事故を起こす人が多い。ロードバイクの速度を理解していない部分もあると思う。

自動車側への広報啓発活動も重要。

◆A委員

交通安全教育の中で、自動車のドライバーに対する広報ということを入れることができないかという意見。

「季別の交通安全運動等における街頭啓発活動の実施」のところで、「自転車利用者を含むすべての道路利用者を」を「自転車利用者・自動車利用者を含む」という様に強調すれば自動車も対象だということがわかるのではないかと。

交通安全運動の時に、自転車に対するマナーのチラシをポケットティッシュと一緒に渡すこともできる。

自動車ドライバーに対する一般的な交通安全教育はあるか。

⇒事務局

季別の交通安全運動等で、ドライバーへ一般的なライトはやめ点灯等の広報は実施している。

◆A委員

季別の交通安全運動の時に、自転車の安全対策を広報していただくこと。  
現在も実施していると思うが、免許の更新時に自転車の安全対策を広報する。  
部会としては、季別の交通安全運動のところに記載する。

◆B委員

予算がかかる話なので、書きにくいかもしれないが、ヘルメットの無料配布や保険の補助など予算に計画されたことがあるか。

⇒事務局

今のところない。

◆B委員

財政的にも、そこまではっきり書くことは書きにくいか。

⇒事務局

具体的になりすぎてしまうこともあるため難しい。

◆B委員

条例で保険の加入となっているが、100%加入しているわけではない。例えば、保険に対する補助制度を検討するといった内容を計画に入れるのはどうか。  
必ず、計画に入れるということではなく検討してもらえればと思う。

◆A委員

保険は、個人賠償で自転車が入っていればよいか。

⇒事務局

大丈夫です。

◆A委員

また、アンケートで保険加入の義務化を知っているが、今後も保険に加入しないと答えている人がいたが、個人賠償保険で自転車も該当になっているからということはないか。

⇒事務局

アンケートなので、そこまではわからない。

◆A委員

市としては、ヘルメットや保険の補助は考えていないか。

⇒事務局

今のところ考えていない。

◆A委員

小学生に対してもヘルメットの補助はしていないか。

高齢者に対してヘルメットの補助をすれば、着用率が増えるかもしれない。

⇒事務局

小学生に対して、ヘルメットの補助はしていない。

◆A委員

16 頁からの「4－4. 自転車を活用した観光振興」について、説明を求めた。

⇒事務局

16 頁について、資料 1－1 及び資料 1－2 により、説明を行った。

◆A委員

前回の部会で、出た意見が反映されていると思う。

◆D委員

輪行作業スペースの明瞭化は、ペイントや表示を行うのか。

輪行作業スペースが欲しいという要望があったのか。

⇒事務局

長野駅は、輪行作業推奨場所があるが実際には標示がない状況であるため、今後、鉄道事業者に働きかけながら表示していきたいと考えている。

輪行作業スペースの要望については、アンケート内にはなかったと思われるが、サイクリスト等が新幹線で長野駅に来て輪行作業場所の表示がされていないということもあったため、施策内容として入れてあるもの。

◆D委員

個人的には、輪行作業スペースは何となく知っていると思われるので、表示しなくても良いと思う。

◆A委員

表示することにより、長野市は自転車に優しいまちなんだと認めていただけるプラスの面はあると思う。

外国人にも優しい。

◆B委員

12頁の自転車マップですが、簡単に片手で開けるマップがある。

改めてマップ作成の内容を見てみると、サイクリングツーリズムの観点での書き方はなかったのので、ここの書き方としてサイクルツーリズムを対象とした自転車マップと書いてもいいと感じた。

◆A委員

観光に即した自転車ロードマップを作る。

◆B委員

マップの中の路線の色と実際のサインの色を合わせて作るとサイクリストに優しいマップになる。

◆A委員

マップについては、紙ベースで考えているか。

スマホは考えていないか。

⇒事務局

紙ベースで考えている。

◆A委員

17頁からの「5. 自転車ネットワークの構築」について、説明を求めた。

⇒事務局

17頁について、資料2により、説明を行った。

◆B委員

20頁のところの、「自転車歩行者道」の取り扱いについて、「自転車通行可の歩道を暫定形態として利用することを検討していきます。」という様な表現ではなく、目指していきますのようにしたらどうか。

◆A委員

歩道の上を自転車が、通行できるという状態は決してよろしくはないが、やむを得ず認めるくらいならいいが、この文章を見ると検討しながら増やしていきますというように捉えてしまう。

◆B委員

道路交通法で、新しく作る路線に関しては歩車分離となっているので、認めるような書き方はしない方がいい。

⇒事務局

表現の仕方を考える。

◆C委員

自転車活用推進計画の中で、具体的な活用の方針が出ている。その中で歩道の活用もあり、具体的な例として植栽のスペース有効利用が挙げられている。

植栽を撤去することになると、緑への思いやりが足りないなどと言われるが、それを無駄にするのではなく、他に移植するなど検討すればいい。

先ほど、駐輪場の満足度と不満足度のギャップがあったが結局、不足と感じる方は市の中心部で利用している方で、ちょっと停めたいときに、停める場所がないと感じている方ではないか。植栽は数メートルでもよいから、自転車を置くスペースに積極的に有効活用するといった内容を入れていただけるとありがたい。

◆A委員

道路上の植栽の部分に手を付けて、駐輪場にするという様な事は考えていないか。

⇒事務局

歩道上に駐輪スペースを設けるのは難しいと考えている。

もし、やるのであれば植栽帯を撤去し、自転車の通行帯を整備していくべきと考えているので、今後検討していく余地はあると考えている。

◆C委員

道路と歩道の緩衝帯として植栽がある場所を有効活用できないかということ。

道路から歩道に入るにしても、植栽等で切れ目がなく入れない場所が多い、なので車道を走ってきても歩道に入れる場所と駐輪スペースの場所があった方が良く思う。

⇒事務局

自転車レーンや自転車道が整備されているところで、植栽帯があれば駐輪スペースを作ることは一つの考えだと思うので、検討していきたい。

◆B委員

計画の中間評価は考えているか。

⇒事務局

5年計画となるので、中間評価は考えていない。

◆A委員

アンケートなどは、大変なので5年後となるのはしょうがないが、自転車の事故件数などは、毎年の統計データで出てくる。

◆B委員

全部を中間評価する必要はないが、できるものは中間目標をおき、そこで確認をして足りなければ見直しをしていくべきだと思う。

◆A委員

令和3年、4年くらいでアンケート以外の指標等について中間評価をした方がいいと思う。それを計画内に書いておいた方がいい。

◆B委員

自転車道のハード整備をする場合に国の交付金を考えているか。  
補助要件があり、毎年事業進捗を報告しなければならないので、必然的に目標値に対して達成状況を求められる。なので、毎年の目標を作っておくのは必要ではないかと思う。

◆A委員

自転車通行帯の整備に係ってくることだがよろしいか。

⇒事務局

その辺は、把握している。5年後の計画は出しますが、もちろん毎年の目標を立てて進めていく。

◆A委員

自転車通行空間等の整備の指標が入っていないが数値が入るか。

⇒事務局

国道と県道と市道がある中で、それぞれどの程度整備できるのかの確認がまだとれていないので、3月19日までには数字を入れたいと考えている。

◆C委員

ネットワーク図の青色の路線全てが、この期間中に整備する部分か。

⇒事務局

5年間の間にすべての路線を整備することは難しいので、5年間の中で整備する部分を検討する。

◆A委員

この青い路線すべて整備すると何kmになるのか。

◆地域総合計画

約 150～160 kmになる。

◆C委員

既存の 12 kmはネットワーク路線ではなく、自転車道として整備できている路線か。

⇒事務局

そうである。

◆C委員

細切れになっている路線ばかりしかないので、2024 年までに自転車道のネットワークができるようにしていただきたい。

◆A委員

2024 年までにネットワークになるように成果を上げてほしい。

整備のしやすさで路線を決めるのではなく、既存の自転車道があればそれを何とかつなぐ方法はないかということでネットワーク化を図って欲しい。

◆A委員

「自転車の総合的な使いやすさを「満足」と感じる人が市民の 3 割以上 **【検討中】**」  
現在が約 10%を 3 倍に増やすわけだから、変わったという部分を見せないといけないので、そこに戦略性がある。駐輪場はある程度整備できているとすれば、一番大きな課題は道路となる。そこが一番変化が見えるところなので、頑張っていたきたい。

(2) 今後のスケジュールについて

事務局から資料 3 に基づき説明を行った。

◆B委員

来年度の交付金の予定はあるか。

⇒事務局

来年度はない。

◆A委員

部会として直接関係してくる予定は、3月19日、6月30日の部会となる。

【4 その他】

今回の部会は、3月19日に開催を予定しているので、後日ご通知する。

午後 4 時15分終了